

## 64-(3)、64-(4)



# 空港の耐災害性強化対策(空港ターミナルビルの電源設備等の止水対策、空港ターミナルビルの吊り天井の安全対策)【国土交通省】

### 施策概要

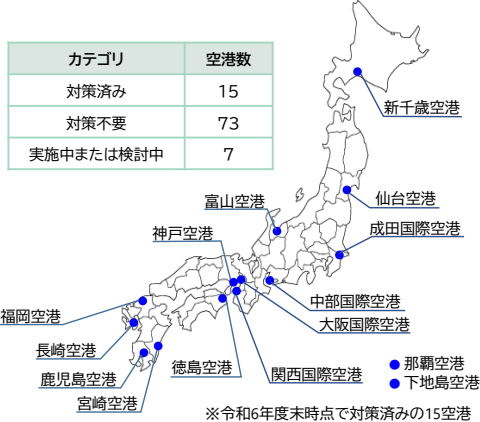
空港ターミナルビルの電源設備への止水扉設置等による浸水対策、地震により落下等の可能性が懸念される空港ターミナルビルの吊り天井の安全対策を実施

### 効果

浸水による空港ターミナルビルの電気設備の稼働停止を回避  
天井落下による空港利用者への人的被害を防止

## 全国的な対策と効果

### 対策1 空港ターミナルビルの電源設備等の止水対策(止水扉の設置等)の実施



▶ 対策以降、台風発生時等における浸水被害の発生はなし

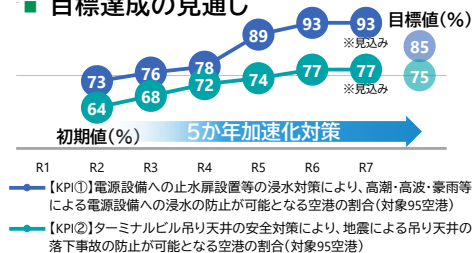
### 対策2 空港ターミナルビルの吊り天井の安全対策の実施

カテゴリ	空港数
特定天井を有していない	52
対策済み	21
実施中または検討中	22

※特定天井とは、脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井(6m超の高さにある、面積200㎡超、質量2kg/㎡超の吊り天井で、人が日常利用する場所に設置されているもの)。



### 目標達成の見通し



※ 加速化・深化分は措置されていないが、空港整備については、自動車安全特別会計空港整備勘定において、必要な対策を実施

## 整備事例

# 電源設備等の止水対策により、宮崎空港の耐災害性を強化する



宮崎空港ビル株式会社



宮崎県宮崎市(宮崎空港旅客ターミナルビル)



宮崎空港旅客ターミナルビル電源設備等の止水対策

## 旅客ターミナルビルの様子



## 更新後の浸水対策鉄扉



## 事業費

-億円※(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)-億円)

※本対策については加速化・深化分の予算等を措置していない。

## 事業の背景(地域の課題)

関西国際空港の旅客ターミナルビルでは、平成30年台風21号において電気室などの設備室が浸水し、大規模な停電が発生しました。本被害は空港利用者及び空港の運用に多大な影響を与えたため、全国の空港において浸水対策の実施が急務となりました。宮崎空港においても、南海トラフ地震に伴う津波に対する浸水対策が必要とされていました。

## 事業の内容

電気設備等のある施設の扉の止水対策を実施しました。具体的には、宮崎市ハザードマップに基づく最大想定浸水深(1.0m未満)を考慮し、浸水防止機能のある鉄扉に更新しました。

対象設備:副電気室・非常用発電機室、揚水ポンプ室・オイルタンク室

## 見込まれる効果

浸水が発生した際にも、1階にある非常用発電機の浸水を防止し、停電時も電力の供給が可能となります。加えて、1階にあるオイルタンク室の浸水を防止することで、4階にある非常用発電機へも動力となる燃料を供給することが可能です。また、揚水タンク室の浸水を防止することで、災害時においても高架水槽へのくみ上げを通じて上水道の供給が可能です。

(1)

人命・財産の被害最小化

(2)

交通・ライフラインの維持

2

インフラの老朽化対策

(1)

施策のデジタル化

(2)

災害関連情報の高度化

激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

3

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進